

To-Collabo 通信

Tokai university Community linking laboratory



Vol.11
2016.6.20



東教授と地域が連携 手づくり郷土賞大賞 に選出

海洋学部の東恵子教授Ⅱが静岡市清水区の市民らと推進する「清水港・みなと色彩計画」が、このほど国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞大賞部門」に選ばれました。

色彩計画は、自然景観と調和した美しい港づくりを目指して、1991年に策定されました。翌年には、産学官民が連携して推進協議会を設立し、さまざまな活動を展開。近年では清水校舎のある折戸地区に「折戸潮彩公園」を整備しました。

この活動には、東教授や海洋学部の学生がTo-Collabo プログラム地域志向教育研究経費採択課題「パブリック・アチーブメント教育を通じた地域連携による人づくり」(2015年度採択課題)の一環として参画。公園での芝植えイベントや住民からの要望を聞くワークショップなどを開きました。

3月16日には清水テルサで認定証授賞式が開かれ、東教授は、「今後も富士山や三保松原を借景に、美しい港を目指していきたい」と話していました。

※東教授は今年度採択課題「パブリック・アチーブメント教育における継続的実践効果の検証による地域づくりの担い手育成の取組」(代表・小林俊行教授)においても活動されていきます。

ライフステージ・プロデュース

大学開放

地域志向教育研究経費採択の「学前夕暮れシアター」(定期映画上映会)の企画・運営(取組代表者・水島久光文学部教授Ⅱ上写真)が、6月24日から月に2回、小田急線東海大学前駅南口のサテライトオフィスで「学前夕暮れシアター」を開催します。

駅前を文化の息づく大学の門前町に 6月24日から「学前夕暮れシアター」を開催

者による講演も予定しています。水島教授は、「映画館はかつて地域文化を象徴する施設でした。定期的な上映を通して、文化が息づく大学の門前町としての雰囲気をつくりたい」と話しています。



http://coc.u-tokai.ac.jp/case/2016-yugure_theater/

ライフステージ・プロデュース

スポーツ健康

大学推進プロジェクトの「ライフステージ・プロジェクト」(取組代表者・沓澤智子健康科学部教授Ⅱ上写真)では、伊勢原市と連携し、市民の健康増進・健康意識啓発を図るための2つの事業を展開します。

伊勢原市と連携し、「市民健康スポーツ大学」と「健康バス測定会」を実施

検診機器を積んだバスが市内を巡回する「健康バス測定会」は6月24日にスタートし、年7回開催予定。両事業ともに検診結果は各自の健康管理に役立ててもらうほか、疫学的解析を行います。



http://coc.u-tokai.ac.jp/case/2016-daishin_sports-health/

注目の取組

2016年度To-Collaboプログラム地域志向教育研究経費採択課題、大学推進プロジェクトの中から、注目の取り組みをピックアップ。近日開催のイベントや取り組みへの思いについて紹介します。

東海大学と地域を結ぶ8つの大学推進プロジェクト

地域デザイン計画の「安心安全事業」「ブランド創造事業」の代表を務める教員に、これまでの活動と今後の展開について聞きました。

01

安心安全事業

— 自然災害への対策を進める —

プロジェクトでは防災・減災に関するさまざまな取り組みを実施しています。その一環で Twitter を活用した災害情報共有システム「Disaster Information Tweeing System」(DITS) を開発し、今年1月には神奈川県平塚市が実施した帰宅困難者対策訓練に提供しました。

また昨年12月には、親子連れを対象とした防災イベントも開き、平塚市消防本部の協力を得て25層の高さに達する

はしご車の搭乗体験や、AEDの講習会を実施。工学部を中心に幅広い学部の教職員、学生がブースを出展し、液化化現象や津波の再現実験などを多くの参加者にご覧いただきました。

このほかにも、災害に関する知識の共有を目的として昨年6月に秦野市大根地区自治会連合会とともに湘南校舎で地域住民らを対象とした防災フォーラムを開催しました。今年度の活動では6月25日に、同連合会とともに防災ワークショップを秦野市立広畑小学校で開きます。

今年4月に発生した「平成28年熊本地震」では、本学の学生3名が尊い命を落とす、非常に痛ましい出来事がありました。しかし、日本では地震や津波などの自然災害を避けられませんが、今後、防災・減災に関する大学の知を継続的に発信・共有していきます。



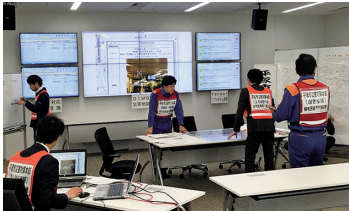
内田 理 教授
情報理工学部情報科学科



防災広場(2015年度開催)では多様な催しで来場者の関心を引きつけた



DITSのインターフェースデザインを開発する学生たち



平塚市帰宅困難者対策訓練にDITSを提供

02

ブランド創造事業

— 地域住民との対話から 価値を創造 —

本事業では校舎のある地域の資源を価値ある商品やサービスに変え、新たな地域ブランドを創造することを目指しています。

湘南校舎では、教養学部芸術学科デザイン学課程の学生が考案した、平塚市の農産物地産地消キャラクター「ベジ太」と漁業PRキャラクター「ひらつかタマ三郎」を、同市の名物とかけ合わせた「ベジタマもなか」を開発中です。

札幌市南区石山で産出する凝灰岩の石材「札幌軟石」を使った商品開発の授業を展開している札幌校舎では、これまでの活動をさらに発

展させ、地域住民との対話を生かした商品開発を行います。

今年度は、対話をしながら価値を見出していく「価値共創」がテーマ。6月21日には東海大学サテライトオフィス地域交流センターで、その手法を学ぶワークショップも企画しています。会場では、20日から24日まで企画展「地域とつくるTOKAIコラボグッズ」も開催します。ぜひご来場ください。



サテライトオフィスでの企画展「地域とつくる TOKAI コラボグッズ」6月20日(月)から24日(金)まで開催



「ベジタマもなか」の型づくりに励むデザイン学課程の学生たち

富田 誠 講師
教養学部芸術学科デザイン学課程



2016年度「地域志向教育研究経費」12件採択 「大学推進プロジェクト」拡充

2016年度大学推進プロジェクト一覧

関連事業	代表者氏名	代表者所属	関連校舎
地域デザイン	安心安全 内田 理	情報理工学部情報科学科	湘南・高輪 清水・(熊本)
地域デザイン	ブランド創造 富田 誠	教養学部芸術学科	湘南・清水 札幌・(阿蘇)
ライフステージ・プロデュース	大学開放 池村 明生	教養学部芸術学科	湘南・(熊本) (阿蘇)
ライフステージ・プロデュース	スポーツ健康 沓澤 智子	健康科学部看護学科	湘南・伊勢原 札幌
観光イノベーション	地域観光 松本 亮三	観光学部観光学科	湘南・代々木 清水・札幌 (熊本)
観光イノベーション	文化・芸術 篠原 聡	課程資格教育センター	湘南・札幌 (熊本)
エコ・コンシャス	エネルギー・ハーベスト 福田 紘大	工学部航空宇宙学科 航空宇宙学専攻	湘南・清水 (熊本)
エコ・コンシャス	環境保全 藤野 裕弘	教養学部人間環境学科	湘南・清水 伊勢原・札幌 (阿蘇)

※ () 書き校舎：震災後の状況を確認しながら実施予定

2016年度の「地域志向教育研究経費」の採択課題と「大学推進プロジェクト」が決定しました。「地域志向教育研究経費」は、地域の活性化と地域への貢献を目的とし、その趣旨である「地域を志向した教育の推進」につながる取り組みを学内公募し、活動費を助成するものです。今年度からは、「タイプA」2人以上のメンバーで、支給金額は1件あたり上限50万円と、「タイプB」各校舎の「To-Connect」運営委員会が主体となつて計画し、各校舎とその所在自治体と連携した取り組みで、支給金額は上限100万円、の2つとなっています。計15件の応募があり、学内外の委員を交えた厳正な審査のもと、12件が採択されました。

また、昨年度から実施してきた大学として推進するプロジェクトは、今年度からさらに拡充。大学開放事業や情報発信活動などを通じての定着を目指し、全8件の実施が承認されました。いずれも活動期間は来年3月31日までとなっています。

2016年度地域志向教育研究経費採択課題一覧

関連事業	タイプ	代表者氏名	代表者所属	取組課題名	代表者所属校舎
地域デザイン	ブランド創造	A 後藤 慶一	海洋学部水産学科	駿河湾産未利用魚「ハダカイワシ」の加工利活用による地域産業の活性化	清水
		B 岩橋 正國	基盤工学部医療福祉工学科	熊本における医工連携事業の推進・拡大と地場産業の活性化	熊本
ライフステージ・プロデュース	大学開放	A 阿部 幸一郎	医学部医学科基礎医学系	生命科学実習を通じた地域連携による幼児教育と初等教育の橋渡しの試み	伊勢原
		A 宮地 勇人	医学部医学科基盤診療学系	高校生の遺伝学的検査の理解を支援する実習形式教育プログラムの開発	伊勢原
		A 水島 久光	文学部広報メディア学科	「学前夕暮れシアター」(定期映画上映会)の企画・運営	湘南
		B 崔 一英	高輪教養教育センター	世代を超えた知の共有と育成を目指した地域連動型教育プログラムの構築	高輪
		B 遠藤 晃弘	観光学部観光学科	スマイルよぎプロジェクト	代々木
		B 竹中 踐	生物学部生物学科	札幌市南区の再発見と活性化：世代を超えた活動と大学の知の貢献	札幌
		B 千賀 康弘	海洋学部海洋地球科学科	洋上キャンパス－望星丸洋上セミナー	清水
観光イノベーション	地域観光	A 小林 俊行	清水教養教育センター	パブリック・アチーブメント教育における継続的実践効果の検証による地域づくりの担い手育成の取組	清水
		A 田辺 加恵	国際教育センター国際言語教育部門	外国人の視点に立脚した新たな伊勢原市の観光資源創出	湘南
		A 加藤 和美	清水教養教育センター	外国客船入港における国際観光事業への振興支援と英語教育	清水



To-Connect Advancement Program 池村明生新室長

To-Connect Advancement Programも採択から4年となりました。ただ、5年の採択期間が終わっても、地域と大学との連携が終わるわけではありません。今年度は、採択終了後を見据えた取り組みを展開していかなくてはならないと感じています。

これまでに培ってきた地域との関係性をさらに深めるためにも、4計画8事業をベースに、大学推進プロジェクトを通じてさらなる浸透を図ると同時に、学生の教育にもつなげていきます。

また、湘南校舎でいえば平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町との協力のもと大学を核とした広域自治体連携につながる活動を進めます。そして、大学を地域に開放する「地域連携デー」の開催や、サテライトオフィスの活用方法を見直すことで、学内外の情報交流の活性化につなげたいと考えています。

お知らせ

東海大学サテライトオフィス地域交流センター
地域連携イベントのお知らせ

7月

◆「ロシアの人々と社会」

第2回 ロシア語という言葉

【日時】7月30日(土) 13:30-15:00

【講師】山下 万里子

(東海大学名誉教授・日本対外文化協会理事)

【内容】一般的に難しい言葉とされているロシア語。そのロシア語の特徴の実例を挙げながら「ロシア語の面白さ」について説明します。

【定員】20名(要申込)

◆「神々の古代エジプト」

前半:「宇宙の神々の成り立ち」

後半:「古代エジプトの神々のポップアップカードを作ろう」(ワークショップ)

【日時】7月21日(水) 18:00-20:00

【講師】山花 京子

(東海大学文学部アジア文学科准教授)

Egyptian Project メンバー学生

(東海大学チャレンジセンターユニークプロジェクト)

【内容】エジプトの神々の成り立ち(創世神話)やその意味、天体に投影された神々の姿などを紹介。ポップアップカード作りも体験できます。

【定員】20名(要申込)

◆「グローバルカフェへの誘い」

～東海大学が開く未知の世界～

【日時】7月23日(土) 13:30-15:00

【講師】カタールからの留学生

ジョハール モハメド イーサ S.M. さん

アルブアイネイン ジャシム アリ M.F. さん

【内容】本学に在籍中の44カ国・地域の留学生が講師となり、自国の文化や生活習慣について紹介します。

【定員】20名(要申込)

◆ 定期映画上映会「学前夕暮れシアター」

①「次男と次女物語」

②「螺旋銀河」

【日時】① 7月 7日(木) 17:30-20:00

② 7月 28日(木) 17:30-20:00

【主催】東海大学文学部広報メディア学科 水島研究室

【共催】東海大学 To-Collabo 推進室

【内容】“ここではない、どこかと映像でつながる”をテーマに、学前夕暮れシアターでは、様々な国や地域の映画を上映します。今回は、東海大学にゆかりの映像作家による作品を用意しました。

6/24(金)
17:30-
プレ上映会

◆ 健康 TOKAI 2016 「にこにこ健康チェック」

【日時】7月20日(水)

午前の部 10:00-11:30

午後の部 13:00-15:30

【主催】東海大学健康推進センター 湘南健康推進室

【共催】東海大学 To-Collabo 推進室

【内容】地域住民の方々を対象とした身体測定(血圧、脈拍、握力、身長、体重、体脂肪率、筋肉量、体年齢)や、保健師による健康相談を実施。「健康のため水を飲もう」と題した展示も行います。

東海大学サテライトオフィス地域交流センター

TEL 0463-78-5188

URL <http://coc.u-tokai.ac.jp/satellite/>

地域の声

To-Collabo プログラムにご協力いただいている自治体の関係者から、これからの期待について伺いました。今回は、秦野市です。



秦野市 市長公室防災課
石原 豪さん 小宮山 謙介さん

市全域での活動に期待

防災課では災害発生時に備え、ハード面では地震や風水害の対策、備蓄倉庫および防災行政無線の整備、ソフト面では地震や風水害の恐れがある場所の把握、防災行政無線や緊急情報メールでの周知配信、防災訓練や講習会を通じた啓発活動など、ソフトとハード両面の業務を行っています。

東日本大震災および熊本地震の発生、近年増加しているゲリラ豪雨等の自然災害を受け、市民の皆さんの間でも防災への意識が高まっています。そんな中、一昨年から東海大学が地域貢献活動として自治会等と協力し、「安心安全」にかかわる活動に取り組んでいただいていることは非常に心強く、市としてもできる限り協力したいと考えています。

東海大では災害時の SNS 活用の方策、地域の危険箇所を把握する「防災マップづくり」等に取り組まれており、市職員の間でも非常に興味を持っているところです。今後、市民向けの講習会等を通じて、こうした知識について市全域に伝えるような活動につながることを期待しています。

活動報告

地域住民に健康増進を啓発して8年目
「東海大学健康クラブ・市民健康スポーツ大学」
の開講式を実施しました
— 伊勢原校舎 —

6月4日に伊勢原校舎で、「平成28年度東海大学健康クラブ・市民健康スポーツ大学」の開講式を実施し、受講生約80名が参加しました。伊勢原市と連携して市民の健康や体力の増進を目指す取り組みで、To-Collaboプログラムの大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計画 スポーツ健康事業」の一環として開講したものです。健康科学部と体育学部の教員らが講師を務め、全72回にわたって講義やトレーニングを行います。今年度の受講生は50代から70代の83名。式には同市の高山松太郎市長も出席し、参加者を激励しました。代表を務める沓澤智子健康科学部長は、「ぜひ最後まで続けてほしい」と話しています。



たくさんのご参加
ありがとうございます!



文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択 「To-Collabo プログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo(トコラボ)とは Tokai University Community Linking Laboratory の略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学(Tokai University)の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ(Community Linking Laboratory)ことを示しています。

『To-Collabo通信』Vol.11 (2016年6月号)

発行 東海大学 To-Collabo 推進室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4丁目1番1号

TEL 0463-50-2406(直通)

FAX 0463-50-2034

✉ E-mail coc@tsc.u-tokai.ac.jp

🌐 WEB <https://coc.u-tokai.ac.jp/>

👍 Facebook <https://www.facebook.com/tokai.coc>

トコラボ WEB サイト

トコラボ Facebook



活動情報配信中!!



東海大学